



<ラムサール通信>

2016年7月4日発行 第179号

●第26回総会報告：2016年度活動方針・計画を決定●

—ラムサールシンポ2016とAWS2017を成功させ、COP13（2018、UAE）へ—

2016年5月27日（金）、ラムサールセンター（RCJ）第26回総会が法政大学で開催され、2016年度の活動方針、事業計画を決定しました。国内では8月27～29日の「ラムサールシンポジウム2016 in 中海・宍道湖」、海外では新規事業「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築—地域住民の気候変動適応、防災、生物多様性保全に対するキャパシティビルディング」（経団連助成3年事業）を中心に活動します。前者は、1996年以来の全国湿地会議でこの20年間をレビューし、後者は、気候変動影響と考えられる大型サイクロンが直撃するインド～バングラデシュ～ミャンマーの低湿地帯の住民と生態系を、地元NGOとともに「ベンガル湾岸」という新しい国際協力の枠組みから考える意欲的な事業です。多くの会員の協力、現地への参加をお願いします。

総会は、安藤元一会長の「また総会を迎えた。昨年、RCJの今後について…と話したが状況は変わっていない。これがNGOの『さが』か。一方、湿地をどうすればいいかの課題、テーマも見えない。制度が整い、登録湿地が増えても何も変わらない。登録は『はい、あがり』でない。ラムサールシンポジウム2016で、何をめざすのか問い直したい」の挨拶ではじまりました。以下、報告です。

* * *

[I] 2015年度（2015年4月～2016年3月）活動報告

2015年はRCJ設立25周年で総会を8月に開催。ラムサール条約COP12（ウルグアイ）で採択された決議XII.2「戦略計画2016～2024」の4つの戦略目標——①湿地の劣化、減少への取り組み強化、②登録湿地ネットワークの効果的な保全と管理、③湿地の賢明な利用の促進、④条約実施の強化を支持し、とくに強調された決議XII.9「CEPAプログラム2016～2024（注：CにCapacity buildingを追加補強）」を活動の中心とすることを確認し、以下の目標を掲げてスタート。

国内活動の目標： 登録湿地の保全の取り組みの強化と住民参加の促進／KODOMOラムサールとユースラムサールジャパン（YRJ）の支援／CEPAプログラムの取り組み強化／CBD・愛知ターゲットとESD・GAPのフォロー／登録湿地関係市町村会議の支援／RCJの組織強化

海外活動の目標： ラムサール条約への貢献／アジアのRCJ主体事業の実施（①ミャンマー事業、インド事業、バングラデシュ事業）／アジアの現地NGO活動の支援

[1] 国内における主な活動の報告

1 KODOMOラムサール<くじゅう坊ガツル・タデ原湿原>

7月18～20日、くじゅう坊ガツル・タデ原湿原でWIJと共催。蕪栗沼・化女沼、琵琶湖、東よか干潟、藪牟田池と地元の子ども16人参加。環境省、九重町、竹田市、地元NGOとの協働が実現し、KODOMOラムサールの継続が具体化でき、2016年8月のクッチャロ湖へと引き継がれた。

2 決議XII.9「CEPAプログラム」の日本語版の作成 WIJに協力して現在、作成中。

3 ラムサール条約登録湿地関係市町村会議／学習・交流事業

三方五湖で開催されWIJとともに協力。各湿地のほかYRJ代表の田辺篤志さんも報告。市町村会議は会長

の名古屋市のもと組織がしっかり確立され、名実とも条約履行の中心的存在となった。

4 WIJ、YRJ との連携強化

日本国際湿地保全連合（WIJ）とは従来から連携も、組織合意にもとづく体制は不十分でしたが、名執芳博会長になってから AWS2014、ミャンマー事業、関係市町村会議、KODOMO ラムサールなどで協力関係が深まり大きな成果をあげています。RCJ を次世代に引き継ぐと期待されるユースラムサール・ジャパン（YRJ）は急成長し、RCJ 活動を支える原動力となりました。

5 「東京湾の湿地と文化…大森の海と海苔」新規事業の助成金不採択について

三浦半島～大森～浦安～木更津の東京湾をラムサール条約の視点からアサクサノリに焦点を当てた「東京湾『江戸前』湿地の文化の再生を通じた地域活性化—1964 年から 2020 年へ『里埋立地』大森の海が遺してきたもの、そして挑戦」事業は地球環境基金が不採択でした。2020 オリンピックは日本の環境再生を世界発信する絶好の機会、COP12 の決議 XII. 10 「ラムサール条約の湿地都市認証」の新しいスキームともリンクするので、今後も大田区「海苔のふるさと館」と実現を探っていきます。

〔2〕海外における主な活動の報告

1 ラムサール条約締約国会議 COP12 への貢献

6 月 1～9 日、ウルグアイ COP12 へ中村事務局長を派遣。会場で「持続可能な未来のための地域湿地シンポジウム」を WIJ と共催、AWS2014 シェムリアップメッセージを発表。地域協力の重要性を訴え、アフリカや中南米代表と意見交換。報告会を 6 月 26 日、東京で WIJ、環境省と共催。

2 「ミャンマーにおける国際湿地ワークショップと湿地マネージャー研修」（KNCF 助成事業）

2013 年度スタートの「AWS 活動の効果的促進のためのアジアのラムサール条約履行後進性地域の湿地調査・研究支援事業」をミャンマーの NGO と実施し、最終年度会議を 2016 年 2 月 2～4 日、ラムサール登録のモインジー湿地で 10 か国の専門家、NGO を招いて開催。環境保全森林大臣ら政府要人が出席、インドジー湖の新規登録とモッタマ湾沿岸の登録準備中を表明。事業目標を達成し、4 日にはヤンゴンで地元 NGO と RCJ が計画中のベンガル湾沿岸湿地ネットワーク構想について協議。

3 「インド国ベンガル湾沿岸村落、持続可能な生活林再生事業」（トヨタ環境活動助成事業）

現地 NGO パリシュリを協働 C/P とするオデッサ州のラムサール登録湿地のチリカ湖とビタカニカ湿地での活動。RCJ 提唱の「生活林／持続可能な村づくり」事業で、前年度までバングラデシュで展開した「ドルガダ島の住民参加による沿岸生物多様性保全事業」の成果を移転した RCJ 主体事業で、地元住民による「自主・自立」を側面支援に進め、岩崎慎平副会長を派遣して成果をあげました。

4 「バングラデシュ国モヘシュカリ島ドルガダ地区におけるサイクロンシェルター型学校区などでの生態系アプローチに沿った住民参加型植林」（国土緑化推進機構緑の募金支援事業）

前年度までの「インド国ビタカニカ湿地の沿岸環境再生にむけた住民参加型植林と持続可能な開発のための環境教育の推進」事業の成果をバングラデシュに移転したもので、ポーシュを協働 C/P とする 2016 年 7 月～2017 年 6 月の単年度事業として成果をあげました。

5 アジアの現地 NGO による事業の支援

上記 RCJ 事業を中心に協働 C/P の NGO プロジェクトにもこれまでどおり支援、協力に取り組み、とくに新たに連携したミャンマーの NGO とはていねいに実績を積み上げてきました。

〔3〕その他の主な活動

1 国内における登録湿地を中心とした支援、協力

- ・環境省の「日本のラムサール条約湿地」パンフレット製作（WIJ 受託事業）への協力
COP 開催年に環境省が製作する普及啓発ツールで、日本語版・英語版の製作に協力しました。
- ・国内における登録湿地を中心とした支援・協力
KODOMO ラムサール以外の具体的活動は減り、関係市町村会議の強化を目標に活動しました。
- ・エコライフフェア「湿地の恵み展」

6 月 6～7 日、代々木公園で WIJ、関係市町村会議と共催で出展。サロベツ原野、渡良瀬遊水地、円山川下流域・周辺水田、荒尾干潟、ユースラムサール、劇団シンデレラなど若い人たちが活躍。

[4] RCJの基本活動

- ・ワイズユースワークショップの開催

5月に第97回「磯崎博司・安藤元一両先生の大学退任記念講演」、8月に第98回「RCJ25周年記念講演」。新規の企画がなく、YRJなど若手人材育成のためにも強化が求められています。

- ・フィールドワークショップの開催

「小網代の森」(4月)のほか、12月の忘年会で「玉川上水源流・井之頭公園」を実施。

- ・ラムサール通信・HP・FBの運用

ラムサール通信を5回発行。その他、HPと会員によるFB、メール配信で情報を発信。

- ・CEPA教材・ツールの開発製作

環境省「日本のラムサール条約湿地」製作協力と日本湿地学会誌「湿地研究」に中村大輔先生主著の「ラムサールセンターが進める湿地環境教育『KODOMOラムサール』」が発表されました。またKODOMOラムサールの「ダイスケメソッド」をまとめた「KODOMOラムサールハンドブック」を刊行。

- ・インターン研修の継続、ユース人材の研修

桜美林大学生インターのほかYRJの大学生ボランティアを数名研修しました。

[5] 組織体制と事務局 *以下の体制で実施されました。

会 長 安藤元一 (ヤマザキ学園大教授)

副会長 磯崎博司(上智大学院教授)、岩間徹(西南学院大教授)、藤倉良(法政大教授)

武者孝幸(ジャーナリスト)、林聡彦(コンサルタント)、亀山保(メディアプロデューサー)

岩崎慎平(福岡女子大准教授)

監 事 藤岡比左志 (ダイヤモンド・ビッグ社)

事務局長 中村玲子 (ライター)

[II] 2015年度(2015年4月～2016年3月)決算報告

*別紙参照

[III] 2016年度(2016年4月～2017年3月)活動計画

RCJ活動は3年計画で立案され、2016年度はCOP13(UAE、2018)を目標とする「第9期中期計画(2016～2018年)」の1年目で、「アジア湿地シンポジウム(AWS)2017」の開催準備と、全国50湿地となった総合的レビューをめざす「ラムサールシンポジウム2016 中海・宍道湖」の開催を最大目標にWIJと協力して成功をめざします。

1 「第8回アジア湿地シンポジウム(AWS2017)」の開催準備

AWSは1992年の第1回(大津、釧路)後、マレーシア・ペナン、ベトナム、インド、マレーシア・サバ、中国、カンボジアを巡回し25年を迎えます。そこで2018年のCOP13(UAE)をめざし再び日本で「AWS2017」開催をWIJと連携して計画しています。日本湿地学会を新たな共催者に、招致を表明している佐賀市で地元関係機関との協力で実現をめざします。

2 「ラムサールシンポジウム2016 in 中海・宍道湖」の開催(WIJのKNCF助成事業)

国内の本格的な湿地会議は1996年の「ラムサールシンポジウム新潟」(当時13登録湿地)がありますが、あれから20年で登録湿地は50となり、リオサミット～釧路COP5～NPO法などを経て人々の湿地への認識の深化、市民運動の広がり、保管理状況は大きく変わりました。「どう変わったか」「どう利用すればいいか」「活動を強化するには」をテーマに8月27～29日に開催します。

3 「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築—地域住民の気候変動適応、防災、生物多様性保全に対するキャパシティビルディング」(KNCF助成事業)

前年度のミャンマーでの「AWS活動の効果的促進のための……」を発展させた広域的国際協力事業として立案したもので、インド～バングラデシュ～ミャンマーのベンガル湾内奥部沿岸湿地の人々の生活と自然と生物多様性の保全のための国際ネットワークを構築する新たな試みで、3年計画を予定。第1回会議を6月6～7日、バンコク・マヒドン大で開催済です。今後、RCJの中心事業ともなり、各方面から期待されている事業です。会員の協力、現地派遣を考えています。

4 アジアにおける RCJ の主体事業

次の2つの事業を現地 NGO を C/P として継続して進めます。

- ・「インド国ベンガル湾沿岸村落、持続可能な生活林再生事業」（トヨタ環境活動助成事業）
C/P はパリシュリで、2年計画事業の今年が2年目です。
- ・「バングラデシュ国モヘシュカリ島ドルガダ地区におけるサイクロンシェルター型学校区などでの生態系などで生態系アプローチに沿った住民参加型植林」（国土緑化推進機構緑の募金支援）
C/P はポーシュ。1年計画事業で、2016年度も継続事業を申請中。

5 国内における主な活動

- ・「KODOMO ラムサール湿地交流 in 浜頓別」（浜頓別町の KNCF 助成事業）
クッチャロ湖がある浜頓別町の開村 100 周年事業として 8 月 5～7 日に開催します。
- ・ラムサール条約登録湿地関係市町村会議
7 月 7～8 日、名古屋市で開催されます。このほかに、関係市町村会議とは連携して活動します。
- ・「エコライフフェア—湿地の恵み展」
6 月 4～5 日、例年どおり東京・渋谷の代々木公園で開催しました。

6 RCJ の基本活動

ワイズユースワークショップの開催／フィールドワークショップの開催／ラムサール通信の発行／HP、フェイスブックの運用／CEPA 教材・ツールの開発／インターン生の研修などに例年どおり取り組みます。

7 その他

中村玲子さんの自宅が転居予定で、事務局機能の移転を検討します。

8 組織体制

前年度のまま留任します。

●エコライフフェア 2016 報告●

6 月 4～5 日、東京・渋谷の代々木公園で環境省の「エコライフフェア 2016」が開催され、日本国際湿地保全連合、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議、ユースラムサールジャパンとブースを出展。「湿地の恵み—ラムサール条約・湿地の観光と物産」をテーマにサロベツ原野、雨竜沼湿原、風蓮湖・春国岱、釧路湿原、仏沼、渡良瀬遊水地、片野鴨池、藤前干潟、東海丘陵湧水湿地群、円山川下流域・周辺水田などを紹介。湿地フォトコンテスト（550 人投票）、ヨシの紙漉き、劇団シンデレラのパフォーマンスも大好評。小山市、栃木市、豊岡市から多数が参加、4 日夜の交流会は各地の郷土自慢（地酒と肴など）を満喫しました。RCJ 関係は武者孝幸、中村玲子、亀山保、苑原俊明、北本健人、佐藤奈津子、佐々木優、長倉恵美子、田辺篤志、大村弥加、富岡辰先、佐藤湧馬、石井花梨・・・さんなど（もれてたらゴメン）が参加。桜美林大学の藤倉まなみ先生、KODOMO ラムサール卒業生の佐藤琢磨、門田響さんの顔もありました。（佐藤湧馬）

●<KODOMO ラムサール湿地交流 in 浜頓別>を開催します●

2016 年 8 月 5～7 日、クッチャロ湖で<KODOMO ラムサール湿地交流会 in 浜頓別>が地元のクッチャロ湖保全対策協議会のほか頓別漁協、東宗谷農協、クッチャロ湖エコ・ワーカーズ、ウソタン砂金共和国と RCJ、WIJ 共催で開催されます。浜頓別開村 100 周年・町制施行 65 周年記念の一大イベントで、北海道の 4 登録湿地と全国 7 湿地から 30 人超の子どもが参加します。ファシリテーターはもちろん中村大輔先生。自然と人々の暮らし、自然環境を守る活動、湿地の恵みを体験・学習して湿地の宝を見つけます。北海道ラムサールネットワーク 10 周年総会、ユースラムサールジャパンの CEPA ワークショップも併催される楽しい祭典です。北海道最北のベストシーズンにみなさん、どうぞ。

●ラムサールシンポジウム中海・宍道湖の参加登録をお早く！●

「ラムサールシンポジウム 2016 in 中海・宍道湖」（8月27～29日／鳥取県米子市）の参加登録がはじまりました。早期登録割引の締め切りは7月31日に迫っています。1996年の「ラムサールシンポジウム新潟」以来20年ぶりの全国規模の湿地シンポジウムで、この間の日本の湿地問題を総合的にレビューします。「湿地をとりまく状況はどうか変わったか／湿地を地域にどう役立てるか／湿地の管理に携わる人々の活動を強化するには」を中心に、活動の成果を発表していただき、ネットワーク、連携の強化をめざします。国・地方の行政、研究者や専門家、NGOや市民団体、学生などあらゆるセクターからの幅広い参加、情報発信、経験交流を期待します。プログラムなど詳細はWEB (<http://www.ramsar2016.org/>) からどうぞ。

●「ベンガル湾の湿地保全ワークショップ」（タイ・ナコンパトム）開催報告●

6月6～7日、RCJ会員の Sansanee Choowaew（マヒドン大学）さんの協力で、「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築—地域住民の気候変動適応、防災、生物多様性保全に対するキャパシティビルディング」（KNCF助成事業）の年度最初の活動として、マヒドン大学のサラヤキャンパスで「ベンガル湾の湿地保全ワークショップ」を開催しました。Ajit K. Pattnaik、Bishnu Bhadari、Sanowar Hossain、D.P.Dash、Sansanee Choowaew、Mashhor Mansor のアジア会員、日本からは磯崎博司、岩間徹、藤倉良、亀山保、武者孝幸、島谷幸宏、名執芳博、長倉恵美子、中村玲子、田辺篤志さん、またミャンマーのNGO代表の Htun Paw Oo（ミャンマー森林協会）、Pyae Phyo Aung（BANCA）、Seung Oh Suh（ラムサール条約東アジア地域センター）のみなさんが参加し、ベンガル湾岸の湿地の現状について情報を交換し、ネットワークの基礎を築くことができました。

ラムサールセンター活動日誌（2014年4月1日～2015年3月31日）

2014年

- 4/10 初来日のラムサール条約事務局長ブリッグスさんと面談
- 4/24 第93回ワイズユースワークショップ「フィールド版・宮島探訪」
- 5/11 経団連自然保護協議会の「企業とNGO交流会」
- 5/31 第24回RCJ総会（東京・渋谷）、第94回ワイズユースワークショップ（講師：岩崎慎平）
- 6/7-8 エコライフフェア2014「湿地の恵み展」
- 6/10 KODOMO ラムサール（KR）事業、環境省平成26年度協働取組事業に採択内定
- 8/18-20 KR<琵琶湖>開催（滋賀県草津市）
- 9/2 KR<琵琶湖>まとめの評価会議（草津市）
- 9/13-15 KR<藤前干潟>開催（名古屋市）
- 9/25-29 ミャンマー湿地調査（KNCF事業）
- 10/2 KR<藤前干潟>まとめの評価会議（名古屋市）
- 10/23-24 ラムサール条約登録湿地関係市町村会議（名古屋市・藤前干潟）
- 11/3-7 AWS/ラムサール条約アジア締約国会議ジョイント開催（カンボジア・シェムリアップ）
- 11/8-10 ESDの10年ユネスコ世界会議（名古屋市）
- 12/1 トヨタ環境活動助成（インド事業）授与式
- 12/10 経団連自然保護基金2015年度助成申請（ミャンマー事業3年目）
- 12/11-15 トヨタ環境活動助成（バングラデシュ事業）評価でバングラデシュへ
- 12/27 第95回ワイズユースワークショップ「AWS/アジア地域会合」報告会。環境省・WIJと共催。引き続きRCJ忘年会

2015年

- 1/1-13 KNCF 事業でミャンマー湿地調査
- 1/14 地球環境基金 2015 年度助成申請
- 1/31-2/1 KR<みやぎ大崎>開催 (大崎市)
- 2/7 協働取組・全国協働ギャザリング 2015 (渋谷 GEOC)
- 2/21-22 生きものの人・共生の里を考えるシンポジウム参加 (豊岡市)
- 2/22 協働取組・専門委員会・全国協働者合同会議 (JICA 地球ひろば)
- 2/22 第 96 回ワイズユースワークショップ「インド・住民参加型気候変動リスクマネジメント」(JICA 地球ひろば)
- 2/27 渋川小学校「いきものがかり」シンポジウム (滋賀県草津市)
- 3/3-11 トヨタ事業、国土緑化緑の募金事業、JFGE 事業の視察にインドへ
- 3/27 経団連自然保護基金 2015 事業 (ミャンマー 3 年目) 内定
- 4/11 フィールドワークショップ「三浦半島・小網代の森とマグロ井」
- 4/18-19 湿原研究所講座 (北海道大樹町)
- 5/6 ユースラムサール会議 (藤前干潟)
- 5/22 経団連自然保護協議会の「企業と NGO 交流会」
- 5/10 玉川上水フィールド調査
- 5/23 第 97 回ワイズユースワークショップ「磯崎・安藤両先生退任記念」 (大田区産業プラザ)
- 6/1-6/9 ラムサール条約 COP12 (ウルグアイ・プンタデルエステ) 参加
- 6/6-7 エコライフフェア 2015「湿地の恵み展」
- 6/26 ラムサール条約 COP12 報告会 (東京・日比谷) 環境省、WIJ と共催
- 7/9-10 ラムサール条約登録湿地関係市町村会議 (福井県三方五湖)
- 7/10-11 東よか干潟ラムサール条約登録記念イベントに参加 (佐賀市)
- 7/17-20 KR<くじゅう坊がツル・タデ原湿原>開催 (大分県九重町)
- 8/1 第 25 回 RCJ 総会 (東京・渋谷)、第 98 回ワイズユースワークショップ「25 周年記念講演会」
- 9/5 日本湿地学会に参加 (東京・四谷)
- 9/19 環境デーなごやに出展 (名古屋市)
- 9/25-26 KR<くじゅう坊がツル・タデ原湿原>振り返り会議 (大分県九重町)
- 10/14 積水化学「自然に学ぶものづくりフォーラム」 (東京イイノホール)
- 10/22-23 ラムサールシンポジウム 2016 打合せで WIJ と島根・鳥取へ
- 10/29-30 KR 浜頓別の準備打合せで、クッチャロ湖、サロベツ原野へ
- 11/4-7 RRC-EA の会合に参加 (韓国・昌原)
- 11/12 日本環境協会子どもエコクラブ会議
- 11/22 KR 東北湿地交流に、WIJ と協力 (大崎市)
- 12/18 経団連自然保護基金 (KNCF) 2016 年度助成申請 (ベンガル湾湿地ネットワーク事業)
- 12/29 RCJ 忘年会・井の頭公園探訪

2016 年

- 1/13 地球環境基金 2016 年度助成申請 (東京湾湿地と文化再生事業)
- 1/22 ラムサールシンポジウム 2016 打合せで WIJ と島根・鳥取へ準備会議 (環境省)
- 1/27 次会 AWS 打合せで、WIJ と佐賀へ
- 2/1-4 世界湿地の日記念国際ワークショップ (ミャンマー・モインジー湿地) を開催 (KNCF 事業)
- 2/4 ベンガル湾湿地をめぐるミニシンポジウム (ミャンマー・ヤンゴン) 開催
- 2/22 子ども鮎ずし試食会に参加 (滋賀県・草津市ほか)
- 2/24-25 ラムサールシンポジウム 2016 打合せで WIJ と島根・鳥取へ